

## リニューアルオープン! 長泉町井上靖文学館

1973年の開館より48年。長く財団法人が運営してきた井上靖文学館が昨年春から長泉町営となり、7月にリニューアルオープンされました。

より一層地元の人たちに寄り添う文学館を目指して、井上靖が身近に感じられるような展示替えが行われました。

まず最初に飛び込んでくるのは、「名言しおり」。井上靖の名言を集め、40種類をしおりにして、自由に手にとり、持ち帰ることができます。

「年齢というものに元来意味はありませんよ。これは私の持論なのですが、若い生活をしている者は若い。老いた生活をしている者は老いている」

「読書の楽しさを知ることと、知らないことでは、人間の一生がまるで違ったものになる。お花畑を歩くのと、沙漠を歩くぐらいの差異はある」

「人間と人間との交渉は結局信じるか、信じないかですよ」

「人間の為すいかなる行動も、自分の知らない意味があり、そこに自分の知らぬ何ものかの力が働きかけているかも知れないのである」

一緒に来たご家族、友人と「どんなことが書いてある?」と見せ合うと、話が広がります。また、井上靖の作品を読んだことのない人は「こんなことを書いている作家なのか」という入り口にもなります。

次に、館内の展示は、活字や文字の資料を減らし、愛用品を増やすことで、井上靖の人柄がみえるように工夫されています。「なぜ長泉町に文学館があるの?」という疑問に答えるべく、「井上靖と長泉」コーナーを新設。『しろばんば』に登場する下土狩駅の歴史や当館の開館時の様子が紹介されています。

そして、じっくり読みたい方には2階のミュージアムライ

ブラリーがおすすめです。これまで2階は文学講座やワークショップ時のみの開放でしたが、新たにミュージアムライブラリーとして生まれ変わりました。全体は、『あすなろ物語』のイメージで、緑と茶色を基調としています。本棚の形は木の幹で、本をきっかけに得たものが、葉になったり、実ったり…成長していく姿を想起させます。本は、幼児向けの絵本、児童書、小説、エッセイ集など幅広く、近隣の作家である小出正吾や大岡信など井上靖以外の作品もあります。

リニューアルオープン第一弾として「長泉町ゆかりの作家」コーナーが新設されました。児童文学者の堀内純子、小説家の渡辺淳一、詩人の水沢なおの著書が木の本棚で実っています。

展示以外にも本との出会いをつくるイベントを企画していて、昨年の夏は、「折る本づくり」「ブックカバーデザイン」「読書感想文お助け塾」「ミニ黒板づくり」という4つのワークショップが開催されました。

また、秋には文学講演会が実施され、編集者が語る「作家誕生の秘話」と題して、芥川賞の裏側、編集者の仕事、井上靖との出会いについて、『別冊文藝春秋』編集長を務めた高橋一清さんにより語られました。

現在開催中の企画展は、「没後30年 井上靖 美をめぐる物語」展です。美術×文学の組み合わせで、アート好きな方も楽しめるように美術館風の文学館になっています。デビュー前に美術記者をしていた井上靖の美的視点、そして、本人が所蔵していた井上靖コレクションが小説とあわせて紹介されています。

今後も楽しく文学に触れる機会を増やしていくため、企画展や子供向けワークショップ、講演会、出張展示、出張講座などのイベントが企画される予定です。



外観



館内



秋には文学講演会を実施。  
講師は高橋一清さん

お問合せ 〒411-0931 静岡県駿東郡長泉町東野515-149 長泉町井上靖文学館 電話055-986-1771

公式HP <https://www.town.nagaizumi.lg.jp/soshiki/syogai/3/2/inouemuseum/index.html>